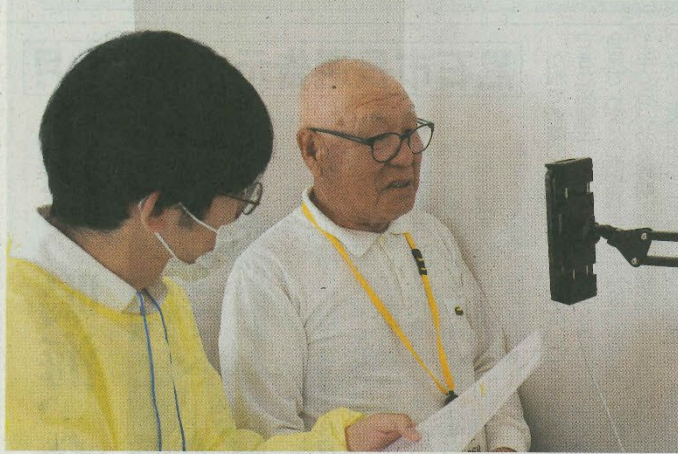


高齢者 健康に変化は

弘大・市の「いきいき健診」スタート



「孤独・孤立」の程度を測定するAI開発に向けて、参加者(右)の表情や声色などを動画で撮影する秋田大学のブース

市民の健康寿命延伸、認知症予防を目的に、65歳以上の高齢者を対象に2016年度に始まった。参加登録者(約2400人)をおよそ半数に分けて、それぞれ16、17年度を調査開始年とし、参加者は隔年で継続して健診を受ける。

今回は16年度に受診した75歳以上の市民を対象。参加者はブースを順番に回り、脚の筋力の衰えを歩行速度で測る歩行調査、認知機能検査などを受けた。

福士朱美さん(元)は健診をきっかけに軽度疾患が見つかったといい、「食事を工夫するなど意識が変わった。体の状態を知るとても良い事業。これからも続けてほしい」と語った。

健診に初めて参画した秋

秋田大初参画、580人受診へ

弘前大学と弘前市が連携し、高齢者の全身の健康状態を10年間追跡調査する「いきいき健診」が20日、同市の岩木文化センターあそべーるで始まった。初日は市民79人が参加し、一般的

な内科健診のほか、歩行速度や認知機能、口腔内環境などを検査するブースを回り、自分の体の健康状態を確認した。26日までの7日間で約580人が受診する予定。

(稲葉智絵)

田大は、弘前大との共同研究で「孤独・孤立」の程度を表情や声色などで測るAI(人工知能)の開発を進めており、関連する質問に答える参加者の動画データを収集する。秋田大大学院医学系研究科の野村恭子教

授は「孤独・孤立は認知症のリスクを高める。他の測定データと照らし合わせながら開発し、予防策につなげたい」と説明した。

統括する弘前大大学院医学研究科附属健康未来イノベーションセンターの三上

達也センター長は「(今回)10年目となった。追跡データを用いた研究成果を、参加者をはじめ市民の皆さんに還元し、未来の健康づくりに役立てていきたい」と話した。

この日は谷川政人市長が

視察し、三上センター長の説明を受け、骨密度測定、2ステップテストなどを体験した。視察後の取材で「健康状態をチェックできる充実した内容で、継続すべき健診だと感じた」と述べた。